

令和7年1月15日

## 「生徒指導支援資料8 いじめに取り組む3」 （『いじめ追跡調査2019-2022』）について

国立教育政策研究所生徒指導・進路指導研究センターでは、いじめ問題に取り組んでいる学校関係者向けに、いじめ防止取組推進に資する標記資料を作成しました。

### 1. 概要

当センターでは、「いじめ」をテーマにした「生徒指導支援資料」を平成21年より作成しており、今回はそのシリーズの8として、「いじめ追跡調査2019-2022」を作成しました。

### 2. 内容等（詳細は別紙参照）

「いじめ追跡調査2019-2022」は、いじめの実態を定点観測的に調べた結果を3年ごとにまとめている調査結果を報告するとともに、その調査結果等に基づき、いじめに関する素朴な疑問に答えるQ & Aを作成しております。今回は調査期間中に発生した新型コロナウイルス感染症の広がりの中で、いじめはどう変化したのかなども考察しています。

#### ○いじめ追跡調査2019-2022の概要

- ・調査方法：2019年（令和元年）～2022年（令和4年）の6月末と11月末の年に2回、4年間で8回の質問紙調査を実施
- ・調査地点・対象校：大都市近郊にあり、住宅地や商業地のみならず、農地等も域内に抱える地方都市を選び、その市内にある全ての小学校と中学校が対象（2019-2022計16校）。
- ・対象児童生徒：小学校4年生から中学校3年生までの全児童生徒4,000名超（1学年当たりの児童生徒数は700名前後）
- ・調査内容：児童生徒に対し、いじめに関する内容の有無を確認するほか、学校や集団への適応感、ストレス、ストレスをもたらす要因、相談相手の有無などを調査

### 3. ウェブサイトへの掲載

資料本体は、当研究所のホームページに掲載します。

<https://www.nier.go.jp/shido/shienschiryu/index.html>

|                                 |        |    |              |
|---------------------------------|--------|----|--------------|
| （お問合せ先）国立教育政策研究所生徒指導・進路指導研究センター |        |    |              |
| 副センター長                          | 宮古 紀宏  | 電話 | 03-6733-6885 |
| 副センター長                          | 佐藤 貴大  | 電話 | 03-6733-6884 |
| 企画課長                            | 石川 いずみ | 電話 | 03-6733-6879 |
| 企画課専門職                          | 森田 泰司  | 電話 | 03-6733-6880 |

## 「いじめ追跡調査 2019-2022」

## 主な内容

## ■ コロナ禍によるいじめの「認知件数」の増減は？（P 5）

2020年（令和2年）2月からの新型コロナウイルス感染症の広がりの中で、「認知件数」の増減とコロナ禍の影響について、文部科学省「児童生徒の問題行動・不登校等生徒指導上の諸課題に関する調査」（以下「問題行動等調査」）を用いて考察した。

## ■ コロナ禍の発生件数は、どうなっていたと考えられるか？（P 6 - 9）

- ・ 小学校の「暴力を伴わないいじめ」の被害経験率について、男子が2013年から50%前後で推移→2016年後半から40%前後へと減少→コロナ禍前の2019年までは漸減傾向、女子が2013年から50~55%前後で推移→2016年後半から45%前後へと減少→コロナ禍前の2019年には40%以下にまで下がる。2020年6月はコロナ禍の影響で特異な数値であるが、被害経験率の漸減傾向は2022年まで続いていることが示唆された（図2-1~2-2）。
- ・ 中学校の「暴力を伴わないいじめ」の被害経験率について、男子が2013年から30~35%で推移→2019年後半30%を下回る。女子は2013年から35~45%の幅で推移→2019年後半35%台となった。2020年6月はコロナ禍の影響で特異な数値であるが、被害経験率は漸減傾向にあることが示唆された（図2-4~図2-5）。

## ■ 「いじめ追跡調査」から見たいじめの態様は？（P 13-14）

- ・ 「問題行動等調査」（2019年度）において、より多く（あるいはより少なく）認知されているいじめの態様別構成比は、どの学校段階においてもほぼ共通している（「冷やかしやからかい、悪口や脅し文句、嫌なことを言われる」が60%前後、等（図5-1））。
- ・ 「いじめ追跡調査」において、より多く（あるいはより少なく）経験されているいじめ被害の態様別構成比は、小学校と中学校でほぼ共通しており、「問題行動等調査」で最多だった「冷やかしやからかい、悪口や脅し文句、嫌なことを言われる」は60~70%を占めている。ただし、それを上回るかのような値を示すのが「仲間はずれ、集団による無視をされる」である（図5-2）。
- ・ 「問題行動等調査」による教師が認知した場合の回答（図5-1）が小学校・中学校ともに60%以上を占める「冷やかしやからかい、悪口や脅し文句、嫌なことを言われる」に関しては、「いじめ追跡調査」による「経験」した児童生徒の回答（図5-2）もやはり小学校・中学校ともに60~70%を占めており、ほとんど同じ値となっていることから、教師による「認知」がうまくなされている態様と言える。
- ・ 同様に、教師の回答（図5-1）で3番目に多いのは、小学校・中学校ともに10数%を占める「仲間はずれ、集団による無視をされる」だが、児童生徒の回答（図5-2）では、小学校・中学校ともに70%と最も多くを占める態様となっていることから、このような態様は第三者の目に見えづらい行為であり、まわりの児童生徒も気付かない可能性があることを踏まえて、児童生徒の様子をよく見る必要があることが示唆された。

・「いじめ防止対策推進法」以降、「認知件数」は急激に増え、とりわけ小学校においては急増したが、依然として認知できていない事案も存在していることが推察される。そうした中でも、比較的認知されやすいのが「冷やかしやからかい、悪口や脅し文句、嫌なことを言われる」であり、逆に認知されにくく、注意が必要なのが「仲間はずれ、集団による無視をされる」ことであることが分かるため、これらが見逃しやすいいじめの態様であるという認識の下、対応することが望まれる（図5-1～5-2）。

【参考：図表の一部抜粋】

★「暴力を伴わないいじめ」（仲間はずれ・無視・陰口）の被害経験率（2013～2022年度、小学校）  
（P6：図2-1（男子））

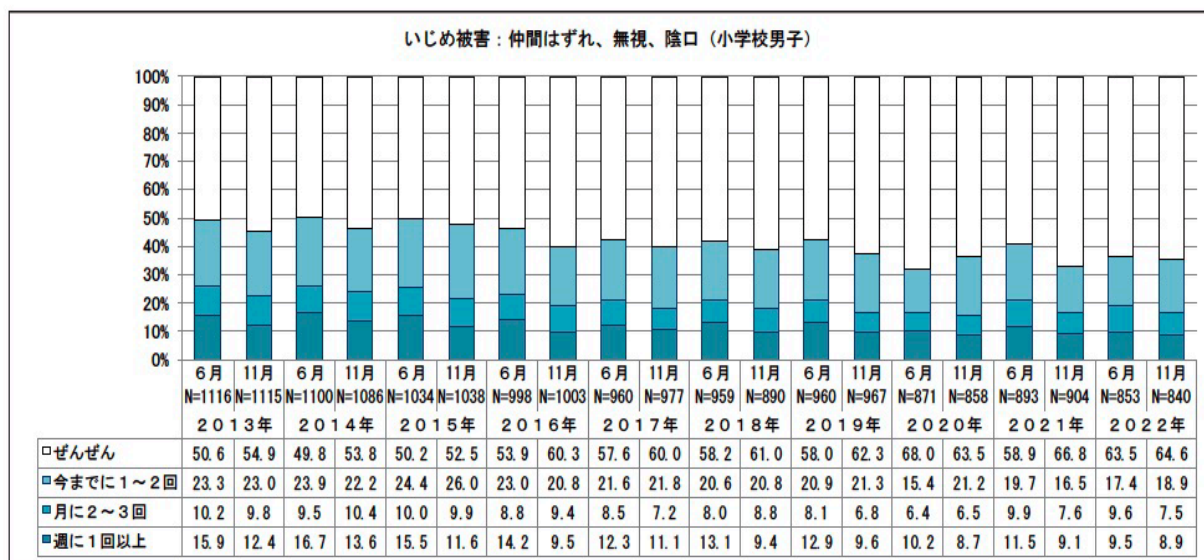


図2-1 「仲間はずれ・無視・陰口」被害経験率の推移（小学校男子）

（P7：図2-2（女子））

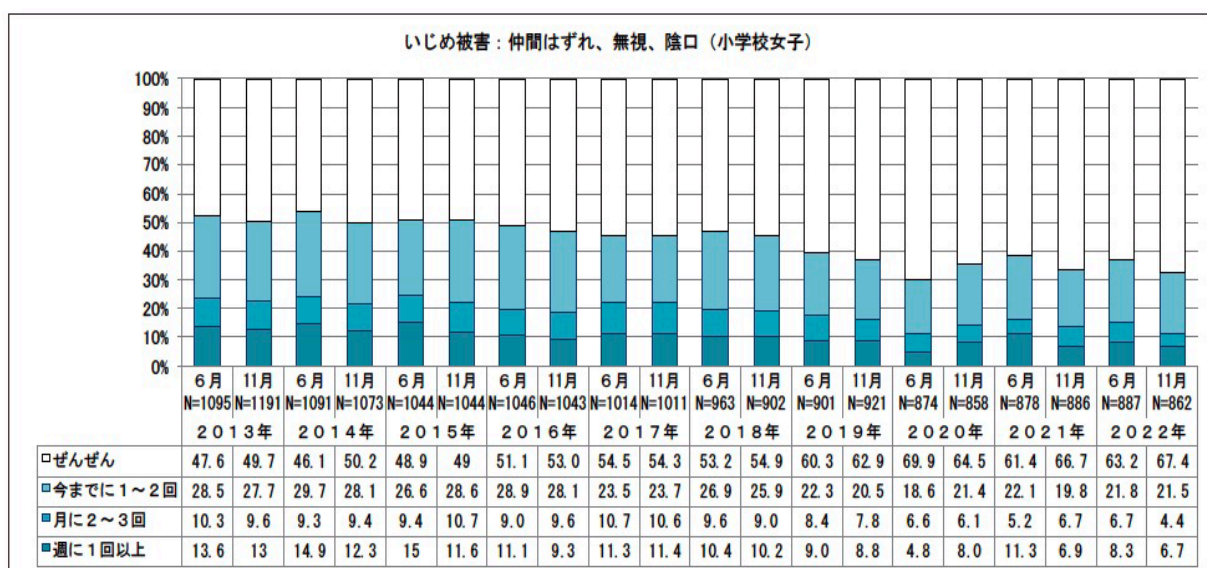


図2-2 「仲間はずれ・無視・陰口」被害経験率の推移（小学校女子）

★「暴力を伴わないいじめ」（仲間はずれ・無視・陰口）の被害経験率（2013～2022年度、中学校）  
（P8：図2-4（男子））

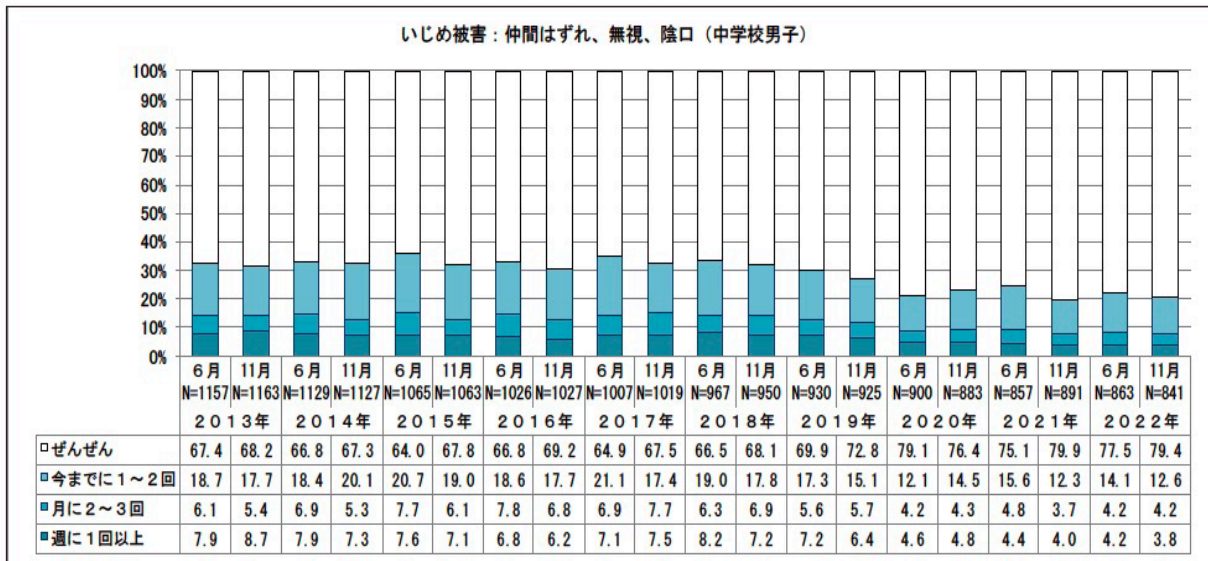


図2-4 「仲間はずれ・無視・陰口」被害経験率の推移（中学校男子）

（P8：図2-5（女子））

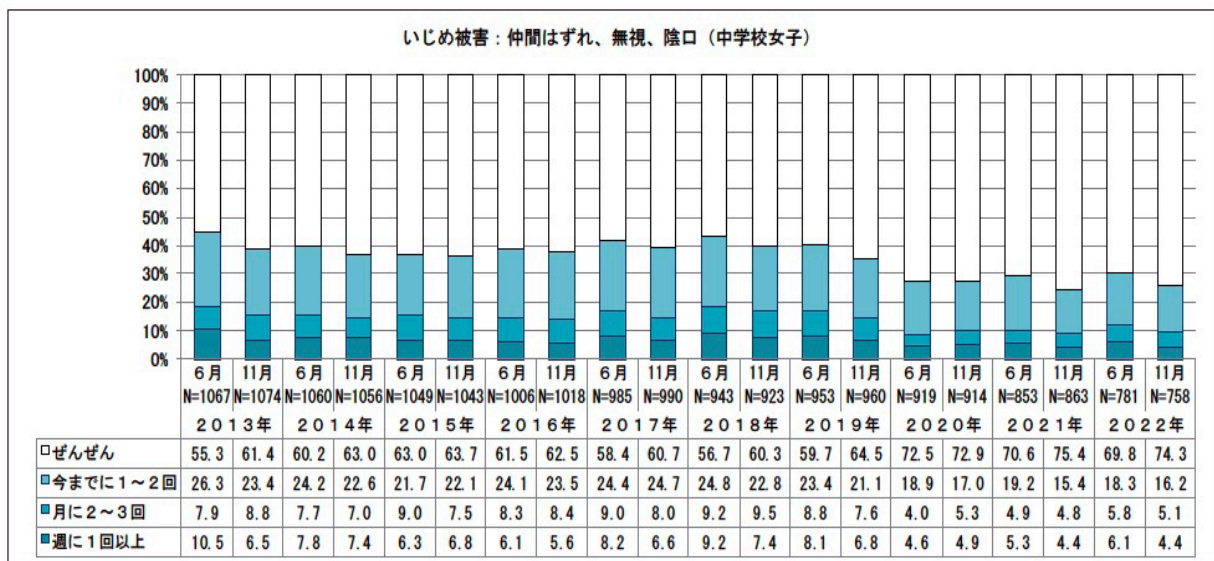


図2-5 「仲間はずれ・無視・陰口」被害経験率の推移（中学校女子）

★「問題行動等調査」態様別構成比 (%) (2019年度) (P13: 図5-1)

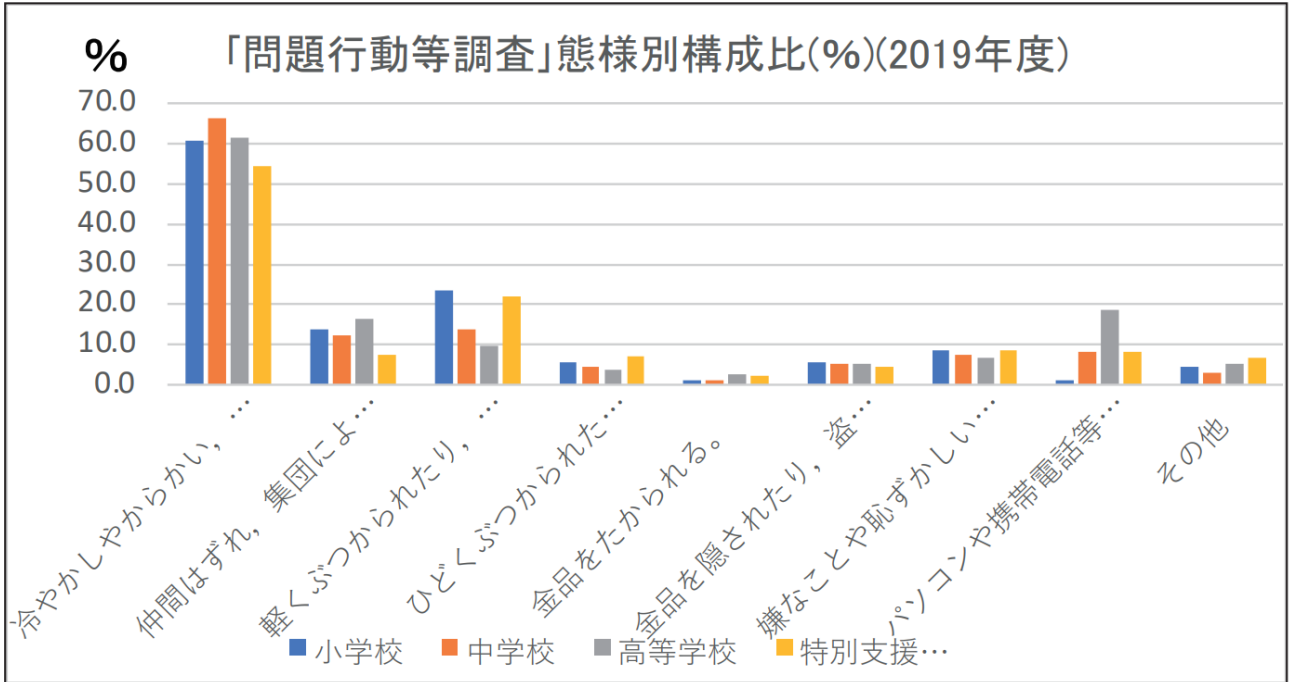


図5-1 「問題行動等調査」態様別件数の構成比 (%) 2019年度

★「いじめ追跡調査」態様別構成比 (%) (2019年度) (P13: 図5-2)

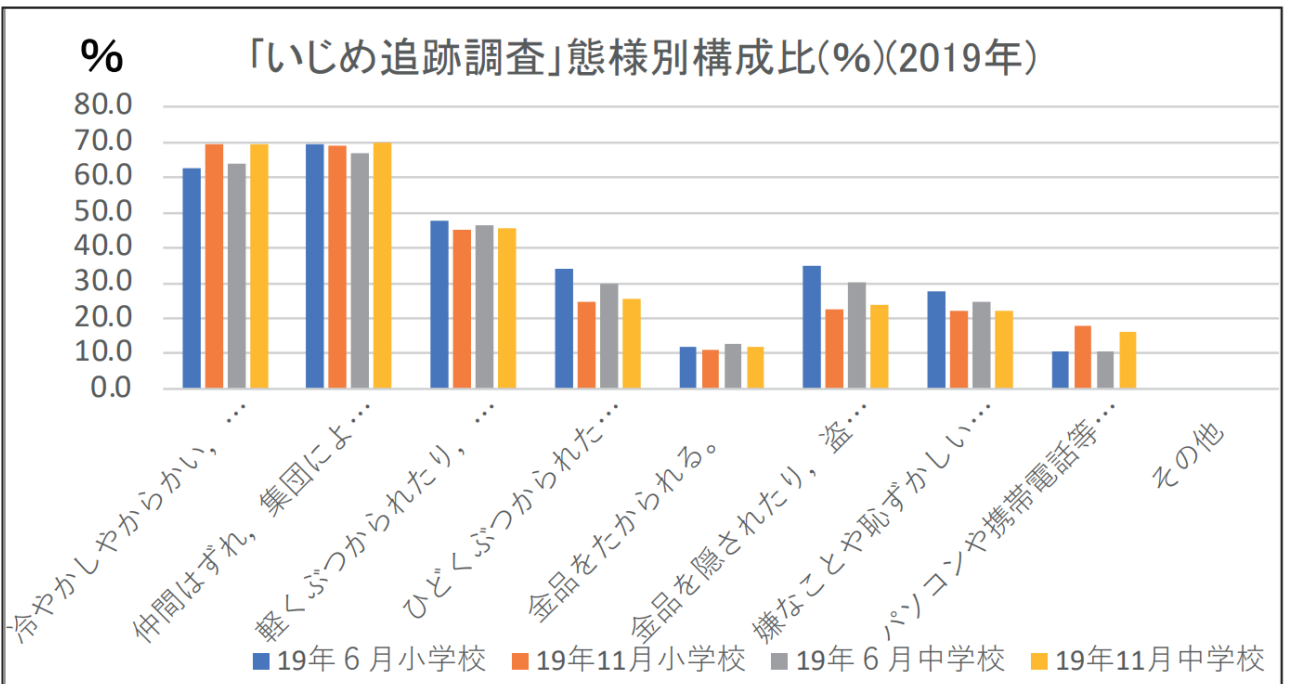


図5-2 「いじめ追跡調査」態様別被害経験構成比 (%) 2019年

※いじめの態様

- ・冷やかしゃからかい、悪口や脅し文句、嫌なことを言われる。
- ・仲間はずれ、集団による無視をされる。
- ・軽くぶつかられたり、遊ぶふりをして叩かれたり、蹴られたりする。
- ・ひどくぶつかられたり、叩かれたり、蹴られたりする。
- ・金品をたかられる。
- ・金品を隠されたり、盗まれたり、壊されたり、捨てられたりする。
- ・嫌なことや恥ずかしいこと、危険なことをされたり、させられたりする。